

保育理念		四季を通し自然を感じながらひとりひとりに愛情をもって未来をつくり出す力の基礎を培う。						
保育方針		心身ともに健やかな子どもを育成する。自然とのふれあいを大切にす る。まごやま文庫（豊かな心を育てる）。		保育目標	素直なおもいやりのある子。がまんづよい子。 社会性を身につける。			
● 保育時間 ①保育標準時間 7:00～18:00 ②保育短時間 8:30～16:30 時間外保育 7:00～19:00のうち①②を除く時間帯 土曜保育 7:00～18:00		● 施設の概要 開園 昭和49年4月 敷地面積 3431.5㎡ 延床面積 926.73㎡ 定員 90名(0歳～6歳)		☆発達過程とクラスの相関性 6年齢別（さくら、すみれ、ばら、つくし、たんぽぽ、もも）に保育所生活を送り、保育指針の発達段階を前提に、年間計画を作成し、子供一人ひとりの成長段階を踏まえ、養護と教育・食育を含め、未来をつくり出す力の基礎となるよう保育を行っている。		☆基本的社会責任 子ども及び大人の人権の尊重、地域社会との交流（行事への参加呼びかけ、梨もぎ、グループホーム訪問）、保育の説明責任（保育参観開催、お便りの配布）、個人情報保護、守秘義務、苦情解決。		地域の実態に対応した事業 年間28回、園庭を開放して地域の親子の交流の場を提供するとともに、食育における食事を一緒に味わう（年4回）。また、運動会、焼き芋及び伝承遊びへの参加を呼び掛けている。
入園式、保護者会総会、交通安全教室、尿検査、遠足、サツマイモ苗植え、よもぎ団子作り、健康診断（年2回）、プール開き、じゃがいも掘り、クラス懇談会、歯科検診、七夕、リズム参観、お泊まり保育、夏野菜苗植え、納涼大会、梨もぎ、運動会、クッキー作り、さつまいも掘り、お月見団子、山登り（年長、年中）、雑炊作り、かけっこの日、おもちつき、消防署立ち会い訓練、クリスマス会、パン作り、伝承遊び、節分、豆まき、ひなまつり、リズム参観、じゃがいも植え、お別れ遠足、イス作り、卒園陶芸制作、お別れバイキング、卒園式、毎月のお誕生会、避難訓練（火災・地震）、消火訓練、職員による園内点検実施。								
		保育の内容						
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
養護	生命の保持	一人ひとりの体調や生活リズムを把握し、整うように配慮する。	一人ひとりの体調に配慮する。気候に応じた体調管理を行う。	基本的な生活習慣がある程度自立できるように援助する。	基本的な生活リズムや習慣を身につけることができるように援助する。運動機能が高まるようにする。	自ら体調の変化に気づく。運動量が増し、活発に活動できるようにする。自ら衣服の調節ができる。	健康について関心を持ち、生活に必要な基本的習慣や態度を意欲的に身につけることができるようにする。	
	情緒の安定	発達の過程などを把握し、応答的な関わりをもつ。	子どもの気持ちを受け止め、信頼関係を築く。安心して生活を送ることができるように関わる。	子どもの気持ちを受容し、共感して信頼関係を築く。	主体的な活動を促す環境を構成し、探求心を高めることができるよう見守る。	多様な経験を通し、自己肯定感を育み、自信や保育士への信頼感を獲得できるようにする。	自主性を育み、自分への自信を持つことができるように見守り、過程で働きかける。	
教育	健康	快・不快を感じ、清潔になることの心地良さを感じる。外気に触れ、五感を通して様々な感覚や知覚を育む。	身の回りのことを自分でやろうとする。大人に援助してもらいながら、自分でする。	生活の中で援助してもらいながら、自分で出来たことに喜びを感じる。自分の意志で生活を繰り返そうとする。	薄着を心がける。身の回りを清潔にし、生活に必要な活動を自分でしようとする。	自分の身体に関心を持ち、異常を感じたら自分から保育士等に知らせる。	生活の場を整えながら見通しをもって行動する。室内外の危険なものや場所・危険な行動を知り、気をつけて活動する。	
	人間関係	特定の保育士や友達と親しみ関わりを持つ事により信頼関係が生まれる。	保育士や友達に関心を持ち関わろうとする。	生活や遊びの決まりがある事を知り、守ろうとする。	友達と簡単なルールのある遊びをする中でルールを守ることが出来る。気持ちのぶつかり合いを大切ににする。	友達と共同で使う物を使い、楽しく遊ぶ経験をしたり、大切に扱うことを知る。友達間で遊びやごっこ遊びやルールある遊びを楽しむ。	行事や遊びを通して共通の目的を見だし、協力して達成感を味わう。	
	環境	安心出来る人間的及び物的環境の下で自然に触れて生活し、感覚の働きを豊かにする。	自然と触れ合う中で四季の移り変わわりを感じる。	身近な自然と触れ合う中で好奇心、探求心が生まれ、遊んだり、感動したりする。	身近な動植物に親しみを持ち世話することで生命の尊さに気づく。安全な遊び方を知り、伝えたりし、自分で守ろうとする。	身近な動物や遊具に興味を持って関わり考えたり試したりして工夫して遊ぶ。	自然や身近な動植物に関心を持ち、想像して楽しむ。	
	言葉	応答的な関わり、語りかけにより、声を出したり、微笑み返したり、表情や発声を豊かにする。	生活や遊びの中で、気持ちを表そうとする。友達や大人との簡単な会話を楽しむ。	生活や遊びの中で簡単な言葉での言葉のやりとりを楽しむ、体験する。	友達の話の聞いたり、保育士に質問したり、興味を持った言葉によるイメージを楽しむ。	友達との会話を楽しみ、相手に伝わるように工夫する。友達同士で話し合い、トラブルを解決できる。	絵本や物語などに親しみを持ち、想像して楽しむ。	
	表現	リズムや歌に合わせて体を動かして遊ぶ。土や水などの素材に触れ全身で感触を楽しみ感性を育む。	リズムや歌・手遊びで、手・体を動かして楽しむ。	保育士や友達と遊ぶ中で、自分なりにイメージを膨らませ、楽しんで遊ぶ。	色々な素材や用具に親しみ、友達と工夫して遊ぶ。身の回りの物を使って創造的な遊び（ごっこ遊び）を楽しむ。	音楽に親しみを持つ。友達とひとつのものを作り上げる楽しさを味わう。制作は作業を集中して行い出来上がる喜び・達成感を味わう。	自分でイメージしながら様々な素材や用具を利用して工夫して作ったりしてみる。自分で描きたい絵をイメージで描いてみる。	
	食育	季節ごとの食べ物や素材そのものの味を味わいながら咀嚼の基礎を身につける。手づかみ食べをする。	手・フォークを使い自分で食べる。畑の世話を通して収穫の喜びを感じる。あいさつの「いただきます」、「ごちそうさま」をする。フォークの使い方を知らせていく。	意欲的に食べるようになる。自分で育てた物を食べる事を通して、食べる事の楽しさや喜びを知る。後半は箸を使って食べる。	食べる事の楽しさを知る。食器を正しく持つ。三角食べを心がける。育てた物を食べる事を通して食べる事の楽しさや喜びを知る。野菜の名前を覚える。	食べる事により全ての命の大切さを知る。こぼさずに食べる。自分の適量を知り、残さず食べる。野菜を栽培し、採れた野菜を調理して食べる事により興味を持つ。	自分の適量がわかり、自分で盛りつける事が出来る。自ら調理を行い、出来た喜びを味わう。畑の世話を通して生育のしくみを観察する。収穫する喜びを知る。食事の準備・片付けを責任を持って行う。配膳のマナーを知る。	
健康支援		年2回の嘱託医による内科検診、歯科検診。異常が認められたときの適切な対応。各クラスによる身長・体重測定などの継続的な把握。			特色ある保育	一年を通し薄着、素足で過ごす保育。畑の野菜の種植えから栽培、収穫と調理を楽しむ。外部からの読み聞かせ。		
環境衛生管理		施設内外の設備・用具等の清掃及び安全管理並びに月1回の点検。子供及び職員の清潔保持。年4回の外部による砂場消毒。職員によるトイレ清掃。保育士・保護者による園庭整備（年1回）。職員健康診断。			地域行事への参加	伝承遊びでの交流。焼き芋へのお誘い。夏祭りへのお誘い。		
安全対策防止		避難訓練及び消火訓練（毎月）。消防署立ち合いの避難訓練。警察署立ち合いの交通安全教育。火災報知器の点検。AED設置。緊急地震速報装置設置。登降園時刻自動検知システム設置。電磁錠設置。防犯カメラ設置。月1回の保育士による安全点検。			研修計画	園内研修。地域・公立保育園研修。私保連、保育士会、全国保育連盟等での研修。		
保護者・地域への支援		子育て支援。子育て相談。中学生チャレンジ体験。ボランティア。実習生の受け入れ。			評価	保育士の自己評価（子どもとの関わりの評価）。保育所の自己評価（全職員での指導計画や園内環境の見直し）。		